

科目名	労働市場と雇用政策
担当者	福島淑彦
配当学期	春学期
単位	2単位
授業概要	なぜ人は働くのであろうか。人が働く最大の目的は「生計の維持」である。しかしそれだけではないであろう。「生きていくため」以外にも、働くことに意味を見出すことができる。例えば、①余暇の充実、②働くこと自体がもたらす満足、③社会への参加、などである。しかし、同じように「働く」といっても、年齢・性別によって賃金・給料は異なる。さらに、似たようなバックグラウンドを持っていても、仕事に就けている人とそうでない人(失業者)が存在する。本講義では、「働く人(労働者)」を取り囲む環境を経済学的な視点から理解・分析することを講義の目的とする。特に、労働者が置かれている環境(労働市場)をマクロ的視点から分析することに主眼を置く。
授業の到達目標	「労働市場と雇用政策」の講義では、「労働者」を取り囲む環境についてマクロ的視点を中心に検証していく。はじめに、労働供給量、労働需要量、賃金、失業がどのように決定されるのかを説明する基礎理論を中心に、労働市場分析のために必要な分析フレームワークを学ぶ。その後、若年労働者、女性労働者、高齢労働者、正規雇用労働者と非正規労働者に焦点を絞り、それぞれの労働市場を分析し、各市場における雇用政策について検証していく。加えて、教育・訓練と労働・労働市場の関係についても考察を加える。
授業計画	(I) イントロダクション 概論 (第1回講義) (II) 人が働くということ (第2回講義) (III) データで見る労働市場 (第3回講義) (IV) 労働供給 (第4回講義～第5回講義) (V) 労働需要 (第6回講義～第7回講義) (VI) 労働市場の均衡 (第8回講義) (VII) 失業 (第9回講義) (VIII) 若年労働者 (第10回講義) (IX) 女性労働者 (第11回講義) (X) 高齢労働者 (第12回講義) (XI) 正規雇用労働者と非正規労働者 (第13回講義) (XII) 教育・訓練 (第14回講義) (XIII) まとめ (第15回講義)
教科書	太田聡一・橋本俊詔 (2004)、『労働経済学入門』、有斐閣、ISBN 4-641-16222-0。 古郡頼子(1998)、『働くことの経済学』、有斐閣ブックス、ISBN 4-641-08615-X。 Boeri, T., and J. van Ours (2008), <i>The Economics of Imperfect Labor Markets</i> , Princeton University Press, ISBN 978-0-691-12449-0.
参考文献	大竹文雄 (1998)、『労働経済学入門』、日本経済新聞社、ISBN 4-532-10762-8。 大森義明(2008)、『労働経済 Labor Economics』、日本評論社、ISBN 978-4-535-55566-2。 Borjas, G. J (2010), <i>Labor Economics</i> , 5th Ed., McGRAW-HILL, ISBN-978-007-127027-2。 Hart, R. A., and T. Moutos (1995), <i>Human Capital, Employment, and Bargaining</i> , Cambridge University Press, ISBN 0-521-06103-2.

成績評価方法	割合	評価基準
	試験 0 %	
	レポート 0 %	
	平常点評価 70 %	Assignment 毎回課題 (Assignment) を課し、それを提出して頂きます。提出された課題に対する解答が提出されたことを前提に講義を進めていく。
	その他 30 %	プレゼンテーション 講義の最後に受講生一人一人にプレゼンテーションが行う。テーマは講義と関連のあるトピックを一つ取り上げ、その経済問題に関する分析をプレゼンテーションという形で報告していただく。
関連 URL		
備考	<p>「基礎経済学」「経済政策」「公共経済学」等の経済学関連の科目を履修していることが望ましいですが、これらの科目を履修していない学生でも履修可能であるように講義は組み立てます。但し、受講生は課されたアサイメント(課題や論文通読等)を行うのはもちろんですが、積極的に準備を行って授業に望んで下さい。また、授業中に疑問に思ったことについても積極的に発言する受講生の履修を希望します。</p>	